

第47回生戴帽式



同窓会便り

第27号(年1回発行)

発行所

〒160-8402新宿区新宿6-1-1
東京医科大学看護専門学校

同窓会

会長 有本 キヨ子
03-3351-6141(内310)

印刷 榊同窓会事務局



東日本大震災、それに伴う原
発事故により被災された皆様
避難されている皆様にお見舞い
申し上げますとともに、一日も
早く復旧・復興されますようお
祈りいたしております。
昨年の会報では編集が間に合
わず失礼いたしました。
被災された方で奨学金を受け
ている方の返済に関しては奨学
金を受けられている所に直接お問い合わせください。

「東京医科大学看護専門学校
同窓会とは」
平成25年に50周年を迎える東
京医科大学看護専門学校は、日
本内外問わず活躍している同
窓生の声を大切に、同窓生の
交流の場を親睦を深め、全
て活動の充実を図るべく、努
めと連携を図り、同窓生の把
握に努めてまいります。
新しい同窓生の原稿依頼を通
知つたり、卒業後故郷や地域
に出会つたり、先輩後輩の
会やクラス会開催等々、温
かい気持ちや新しい思いに浸
つたり、再会が新しい活動に
つながります。
同窓会は各地で活躍してい
る同窓生の声を聞き、今更
に同窓会活動の発展を期す
す。今こそ、皆さんのお力
を借り、私一人の力では出来
ないことを、皆様の声をお待
ちし、皆様の声をお待ちし
ます。

会長就任挨拶

同窓会は何をしようと？



同窓会会長

有本 キヨ子

本科3回生

同窓会の運営に関わるのは20年ぶり、2011年6月の幹事会からです。そこで卒業生の人数を知り、なぜか不安感を覚えました。3075名という人数に反応してしまつたようです。後日参列しました47回生の載帽式で、何となく3000名を受け止められそうな感じが生まれてきました。同回生の人数は3回生の約4倍でした。(P1の写真)

数回の役員会を経て、大所帯であることが気にならなくなつていました。同窓生と出来ることなら双方通行ができれば嬉しいです。「東京医科大学看護専門学校同窓会」をどのような会にしたいかについても、大勢の声が聴けたらと思つています。いまのところ年1回の会報ではありますが、会員同士の疎通が少しでもはかれるような紙面にしたいと考えています。

また隔月の役員会は、全員の集合は儘なりません。前年度の活動を踏襲しつつ、その意義や経済を見直します。新しい企画や活動を試みるための検討も重ねています。新会員をお迎

えするにあたって、会員にとって有意義な同窓会にしていきたいと、改めて考えています。今を捉えるところから始めることになりませんが、我が校の特性でもある柔らかな人間関係の風土を活かしていければと思います。同窓会は、仲間の集う場であり、何かをして、しなくてもつながりを感じられる場です。上下関係のタテ社会とは異なり、なんでも先ず話し合つて、決めていく自由な組織です。さまざまな可能性のある、同窓会の空間は皆様のものです。ご活用ください。

更に、臨床では、中野八重美さん(進学科1回生)が2011年12月から副院長・看護部長として、阿部満子さん(本科6回生)の看護部長職10年に続いて活躍なさつています。

皆様のアイデアやご意見をお寄せください。同校の好、遊びも有り、皆でこのストレスフルな日常を気持ちよく過ごしていけるよう、同窓会で何かをしていきましょう。会長といたしましては、お姉さま・同期生・妹や弟娘や息子のように感じられる同窓生の皆様の元気に寄与したいと思つています。



立ち上げました!

東京医科大学看護専門学校50周年記念誌作成プロジェクト(仮称)を立ち上げました。

私たちの母校は、2013年に50周年を迎えます。前後して大学化が実現するようですが、この期を捉えて、50周年記念誌を作成しようと有志が参集しました。有本キヨ子(同窓会会長 本科3回生)・峰村淳子(副学校長 本科7回生)・河津芳子(本科2回生)・黒坂知子(本科3回生)・竹内千恵子(本科3回生)・阿部満子(本科6回生)が集まりました。今後、実際の編集が進むにつれて皆様のお力を拝借することになります。

どうぞよろしくご協力のほど、お願いいたします。



幹事会のお知らせ

平成24年6月2日(土)

13:00~14:30

東京医科大学病院

本館6Fカフェテリア

幹事の方は出席をお願いします。

詳細は別紙をご覧ください。

(幹事の方のみ同封しております)



平成23年度幹事の方々

副院長・部長就任挨拶



東京医科大学病院
副院長 看護部長
中野 八重美

春寒しだいに緩むころ、同窓生の皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。

昨年は、日本各地で大災害があり大変な年でした。中でも、有史以来と言われる東日本大震災及び福島原発事故は余りにも悲惨な出来事で、今も忘れることが出来ません。同窓生の皆様の中にもご自身またはご家族様が被災に遭われ、辛いお気持ちの方もいらっしゃるかと思えます。心からお見舞い申し上げますとともに少しでも早い復旧・復興を願っております。

私は、平成15年より統括安全管理者として組織横断的な活動をしており、看護職として100%の役割を担っていたわけではない中で、平成22年12月に看護部長に、平成23年1月に副院長に就任し早、1年が経過いたしました。この1年は、看護職のみならず教職員の皆様方に支えられて過ごすことが出来たと感謝しております。

私は、『1. 専門職として優秀な人材を育てる 2. 魅力ある職場づくりをする 3. 患者・家族に選ばれる病院作りをする』ことを目標に掲げております。

これからの看護職は、医療チームの中で看護の専門家として患者のためにしつかりと必要なことを発言・発信できることが求められます。その意味では、自施設で働く看護職の育成はもとより、一人の人間・職業人として自律した質の高い看護職を多く育てたいと思います。東京医科大学は、平成28年に創立百周年を迎えます。今大学病院では、新病院建設に向けた準備が始まりました。

また、看護大学（東京医科大学医学部看護学科）設置も正式に決定され、平成25年度開校に向け準備が進んでおります。看護大学設置は、東京医科大学看護専門学校同窓会の悲願でした。開設に向けご尽力頂きました関係者の皆様方にご場をお借りし、心より感謝を申し上げます。看護大学があるということは、看護の質を向上させるだけではなく、病院で働く看護職のモチベーションを高めることにも繋がります。心から歓迎するとともに臨床側として今後、積極的に支援を行ってまいりたいと存じます。同窓生の皆様には今後ともご支援を宜しくお願い申し上げます。

今年の干支は壬辰（みずのえ）つ、じんしん）です。昨年は辛い、悲しい、厳しい等の印象があります。しかし、今年の干支である壬辰には天地を昇る、大きな気の流れを変える、成長や発達をするなどのいわれがあります。これまで以上に強い意志を持ち本気で物事に取り組み、壬辰の強い運気を味方にし、病院発展のチャンスにしていきたい

いと思えます。

最後になりますが、昨今の少子化問題等の影響により、我が東京医科大学病院においても看護職確保に苦慮しております。看護の質を向上させるには安定した人材確保が重要となります。皆様の周囲に東京または関東方面での就職を希望している方がおられましたら、母校である東京医科大学病院をご紹介頂きますようお願い申し上げます。同窓会のみますますのご発展と、今年1年が皆様にとりまして良き年でありまことを祈願し挨拶とさせていただきます。



東京医科大学病院 本館

46 回生の同窓会入会を歓迎いたします

新役員紹介

いつの間にか30年

會田 優子 進学科10回生

東京医科大学看護専門学校進学科に入学し、早30年。なんと月日の経つのが早いでしょう。私が東医に入学就職した時は、まだ旧館で、学校の教室は地下室で、職場は、脳外科・胸部外科混合の西館1階でした。

今年、縁あって監査役を受けることになりました。そして、6月に同窓会幹事会に出席した折に、同級生や、学生時にお世話になった教務主任の杉浦先生(後の看護部長)や、西館1階時代の先輩にお会いすることができました。先生や先輩にお会いしたのは、卒業以来です。とても懐かしく思いがけない感動でした。容姿体形は少くし年数を重ね、様々な人生を送ってきているのに、挨拶を交わした瞬間から、タイムスリップしたかのように当時の頃に戻ってしまいます。そんな懐かしさに駆られ自分自身を振り返ってみました。私の出身地は、群馬県沼田市です。四方を山に囲まれ、自然豊かな町に育ちました。なので、新宿の高層ビルの立ち並ぶ大都会は、とても衝撃的な場所でした。そんなビルの谷間(二寮)での生活は、忙しくも充実した楽しいものでした。友達と朝まで語り、日勤深夜の間に学校の授業、都内周遊、時に職

場の先輩達に誘ってもらい、都会のちよつと大人気分を楽しんだり、レポート、実習、テストはどんなに勉強しても終わることなく、私にとつて一番勉強した時期だったと思います。この頃は何かにも欲張りな生き方をしていました。現在は、結婚し2人の子育てをしながら、企業の健康管理センターで、健康増進と、健康管理など疾病健康に関心を持ち、食事・運動の大切さを少しでも解ってもらえるよう日々頑張っております。

新役員就任挨拶



山内 麻江 23回生

同窓生の皆様こんにちは。この度、会計係となりました23回生の山内です。

早いもので看護専門学校の教員として母校に戻り7年が過ぎました。

学生指導の担当だった42回生をはじめ、多くの卒業生達が臨床で活躍している姿を見てとても頼もしく感じています。日々、業務に追われる毎日ではありますが、看護教員としての専門性や教育実践力の向上のために、努力してまいりたいと思います。これまで同窓会の役割にあまり関わってまいりませんでしたので、有本会長をはじめ役員

私たちが役員です

- 会長 有本キヨ子 (看3)
- 副会長 内田 幸子 (看15 A) 守屋みゆき (看17 B)
- 書記 澤田 育子 (看22 A) 小浦 千勢 (看27 A)
- 会計 大島 久美 (看30 A)
- 監査 山内 麻江 (看23 B) 石川 順子 (看24 B)
- 会田 優子 (進10) 千葉 泉 (看18 B)
- 布施由香梨 (看35 B)

よろしくお祈りします。



看護学校の3コース

本科	1964年 1回生入学	2012年 49回生入学
別科	1970年 1回生入学	1976年 5回生卒業
進学科	1974年 1回生入学	1987年 10回生卒業



員の方々にご指導を頂きながら、少しでもお役に立てるよう努めさせていたきたいと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。



学校長挨拶

同窓会会員の皆様



学校長 山科 章

2010年4月に第10代の学校長に就任しました山科章です。大学での所属は第二内科(循環器内科)です。就任後、すでに2年が経ちますが、初めて同窓会だよりに寄稿させていただきますので、看護専門学校近況紹介を含めてご挨拶したいと思います。この原稿を書いているのは2011年の年末であり、2011年を振り返りながらの内容となります。ご了承ください。

2011年は東京医科大学看護専門学校におきまして変革の年でした。その一つは、看護学校設備の整備および充実です。大げさかもしれませんが、学習環境と生活環境が大幅に改善し、学生たちも大喜びでした。教室の机や椅子だけでなく、視聴覚設備も更新されました。トイレもきれいになり快適な環境となり、学生たちには大好評です。ぜひ一度、見学にいらしてください。

看護専門学校は2013年に50周年を迎えますが、その時期に東京医科大学の看護教育が大きく変わることになります。2013年4月開設を目指し

て東京医科大学看護学科を新設することになりました。2011年に看護学科設置準備室を設立し、多方面から準備を進めています。申請書類作成を進める一方、看護学科新設に合わせた新校舎(看護学科棟)の建設計画が承認され、2013年4月の開校に合わせて、大学キャンパス内に5階建ての新館を竣工する予定で準備を進めています。

東京医科大学の看護師育成の理念は、「倫理観に基づく豊かな人間形成をめざし、看護に必要な基本的知識、技術、態度の育成をはかり、自主自学の精神で継続学習し、看護の質向上と変化する社会に貢献できる看護師を育成すること」です。そのゴールの一つの形が、看護学科新設です。看護学科におきましては、看護学科学生教育だけでなく、大学院教育、看護師生涯教育、社会人教育にも貢献すべく活動を展開します。

看護学科新設に伴い、看護専門学校は閉校が予定されていますが、私たちは看護専門学校として、最後まで、優秀な看護師を育成し、社会に送り出すべく学生教育を継続します。知識と技術に偏重せず、看護の心を持った看護師の育成をめざして、教員一同努力を続けます。

東京医科大学看護専門学校同窓会会員の皆様におかれましては、看護専門学校と合わせて新設予定の看護学科につきまして、さらなるご理解とご支援をお願い申し上げます。

新教員挨拶

看護教員として



折元 美雪
旧姓(品田) 23回生

同窓生の皆様こんにちは。また23回生のみなさん如何お過ごしでしょうか。この度の東日本大震災により被害を受けた皆様、また、被災地に所縁の深いご関係の皆様、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

早いもので卒業から20年余りが過ぎましたが、私はずっとこの東京医大に在籍しております。驚かれる方もおられるかと思いますが、この4月から看護専門学校に専任教員として異動となりました。

まずは、旧所属での多くの方々に変お世話になりましたこと、この場を借りましてお礼申し上げます。まだまだ自分自身のことには精一杯で、思いとは裏腹に現実には空回りしてしまうことも多く、他の先生方の足手まといになつていいる感もありませんが、新たな環境で日々右往左往しながら学生とともに自身が進んでいることを実感しています。

これらを担う人を育てる役割は責任重大ではありますが、今までの学び

といずれ後輩となる学生への愛情、そして自分自身が受けてきた皆様方からの教えが大きな支えとなり後押しをしてきています。

病棟実習では、違う立場、今までは違う視点で学生をみる中で、学ぶことも多く学生と一緒に看護を深めているようにも思います。未熟ではありますが、諸先輩方の助言をいただきながら、臨床とも協力し合いより良い教育、そして後輩育成ができたかと考えています。

これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

看護教員としての出発



小椋山 敦子

今年4月より東京医科大学看護専門学校に専任教員として入職いたしました小椋山敦子と申します。教職に就く以前、東京医科大学病院の産科病棟で看護に必要な多くの知識・技術・態度を諸先輩より学ばせて頂き、仲間とともに看護という職業に携われる喜びを感じることができました。退職後は非常勤教員として約半年間、看護専門学校でお世話になり、個性豊かな先生方の学生一人一人に温かく熱心に教育に関わる姿に刺激され、看護の素晴らしさを多くの学生に伝えていきたいと思

看護教員養成研修を受講しました。看護基礎教育の基盤を学び、晴れて専任教員としての第一歩を尊敬する先生方がいる看護専門学校でスタートできることをこの上なく光栄に思っております。そして、看護師助産師として育てて頂いた東京医科大学病院に微力ながらも恩返しできる機会に感謝しております。今後は、看護教育を通し人間に關する理解を深めつつ、理論的・科学的に思考のできる学生を育てていきたいと思っております。私自身、学生と看護について夢を語るような教育者を目指して頑張りたいです。また、東京医科大学看護専門学校をはじめ東京医科大学、東京医科大学病院の発展に貢献できるように努力していくつもりです。いろいろとご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

就任の挨拶

副看護部長就任に際しての御挨拶



高城 由紀 18 回生

この同窓会新聞が発行される頃は、春の暖かい風が吹き始める季節の頃だと思えます。

『平成 23 年 3 月 11 日』あれから約 1 年の時間が経過し、あの恐怖感が少しづつ

つではありますが癒え始めてきています。しかし、あの時を体験した私達は生きていく限り決して忘れることはないでしょう。大変遅いお見舞いになりますが、同窓生の皆様、またそのご家族の方で罹災されました方々にこの場をお借りして心よりお見舞いを申し上げます。

当然のことながら新宿新都心でも、

11日は過去に経験したことのない揺れを感じ、患者さんや帰宅困難状態に陥ってしまったその御家族、くわえて夜勤務看護師の安全を見守るため、日勤スタッフの多くが一致団結し夜を徹して働きました。そんな患者・家族の安全確保に走りまわるスタッフの姿を目の当たりにして、私はその看護の姿に感心し、まさしく当院の看護理念である『温かな心のこもった看護』が提供されていると実感することができました。

偶然にもその年に副看護部長職を拝命させていただき、公私共に一生忘れられることができないうちになりました。副看護部長という重責を私のようなものが本当に担えるのかと自問自答を繰り返し、相当悩みもしましたが、結果的に職責を担う決意を致しました。就任して早、10か月(1月現在)が経過しようとしています。日々溢れるように湧いてくる業務に圧倒され、今はまだ前任の副部長に補佐していただきながら日々の業務をこなしているというのが正直な所です。本誌前号ですでにご挨拶されており、皆様もすでにご存知だ

と思えますが、本学で法人理事として八王子医療センターの副センター長を務めておられる小野寺看護部長が私達看護師の代表として活躍されております。そのご活躍の結果、平成 25 年度を目標に私達同窓生の長年の夢であり、念願であった「看護学科の設立」が現実のものとなってきました。同窓生の一入として大変うれしく思うと同時に、将来、本校の看護学科卒の後輩達が胸を張って働くことのできる臨床の教育システム作りを力を注いでいきたいと考えております。

今後、微力ながらも臨床という前線で患者・家族のために額に汗して頑張っている看護スタッフの皆のため、そして当院の看護の質が向上するよう副看護部長という職務を真摯にそして全力で努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、何といたしましてもまだまだ若輩者でございますので、同窓生の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



人に支えられて・感謝を心に

蓮見 和子

旧姓(小泉) 17 回生

同窓生の皆様ご無沙汰致しております。私がこのような形で掲載されるとは誰も想像していませんが、機会あり主任の仕事をお引き受けすることとなりました。

日々反省と学びの連続で、自分の不甲斐無さに唇を噛む事もありますが、充実した毎日です。振り返りますと、自信がなく自己否定ばかりの看護学校時代、担当教員に自分の存在価値を認めて頂き、救って頂きました。「こんな自分でもいいのか」と心の霧が溶け安堵感を得た事を記憶しています。その体験がなければ今の私は存在していません。このように人生の節目で様々な人の温かさに触れ前を向かせて頂きました。背中を少し押ししてくれる上司、苦楽を共にした何でも言い合える同期、看護を語り合える仲間、間違いを叱ってくれる先輩、失敗を広い心で許してくれる我慢強いスタッフ、先輩を立ててくれる後輩、健康な明るい家族、人に恵まれ、支えられ、感謝の思いでいっぱいです。

東医の優しい環境の中、患者・家族への想いに少しでも寄り添える看護を提供し、スタッフが気持ちよく働き続けられるよう環境構築に力を注ぐ所存です。

今好きな言葉「桜梅桃杏」。人とは比べず自分を信じ自分らしく出来ることをし、相手も認めていく。私自身も環境の要因ですので、緊張の連続である仕事に力を注いでいる周囲の人々に穏

やかで癒しを与えられる人間として成長していきたいです。担当教員小倉先生・同窓生皆様のご健康を祈念致します。



蓮見主任 (前列中央)

主任昇任にあたり

田口 裕子 26 回生

同窓会の皆様、26 回生の皆様こんにちは。私は現在 16 階東病棟で勤務しています。頼りになる平山師長さんと優秀なスタッフに囲まれ毎日楽しく仕事をしています。就職して 19 年、現在の病棟に勤務して 6 年目になりますがあつというまに時間が過ぎていきました。学生時代にはこんなに長く働いて

いる自分が想像できませんでした。病棟には様々な患者様がいてそこには毎日違った看護があり、自分の看護がこれでよかったのか悩んでいます。看護の奥深さを痛感し看護を学び続ける大切さを実感しています。これまで自分が続けることができたのは、これまで関わってきた師長さんや主任さんやスタッフ、そして今ではだいたい人数が減ってしまいましたが同期のおかげだと思つています。特に同期の皆さんには本当に励まされました。自分は周りの素晴らしい方々に支えられてここまで続けられたと思います。まだまだ自分には学ぶべきことは沢山あるので、日々自己研鑽に勤めていきたいと思つます。そして自分が今まで培ってきた看護を後輩に伝えていき、主任として自分自身がスタッフを支えられるようにがんばつていきたいと思つています。

主任就任にあたり

大友 紀子 27 回生



同窓生の皆様こんにちは。皆様におかれましてはますますご活躍のことと思つます。私は精神神経科(現メンタルヘルス科)、15 東病棟を経て、現在は 17 西病棟で勤務しています。そして、この 4 月からは主任として働かせていた

だいています。まだまだ主任という役割に慣れない事も多く、力不足の自分に情けなく感じることもあります。しかし、師長やスタッフに支えて頂きながら、自分に何ができるのか日々模索しながらがんばっています。思い返すと、卒業後は看護師を続けていけるのか自信がなく、3 年・5 年間：はがんばろうと思いつながら働いていました。でも気がつくとも 18 年。院内に残つて 27 回生は二人だけになりましたが、こんな私が続けてこられたのは、職場の先輩や同期、後輩の支えがあつたからだと思つています。また、先輩方や後輩から学ぶことも多いです。看護師は知識や技術だけではなく、患者や職場の人に支えられている部分がとても大きいと思つます。これからも人との出会いを大切に、働きやすい職場環境になるよう、よい人間関係づくりに貢献していきたいと思つています。

主任就任にあたり

石田 恭子 28 回生



同窓生の皆さまこんにちは。いかがお過ごしでしょうか？ここに登場する日がくるなんて、年月は確実に経過していると感じています。3 年生の時、どうするどうする？と部署希望で悩んだ日を懐かしく思つます。あの

時の決断が、現在まで続くことになるとは…。先のこととはわからないものですね。

私は卒業以来ずっと、新生児看護に携わっています。可愛い赤ちゃんとその家族に魅了されて、ここまでやってきました。自分だつたら？こうしたら？と関心事は尽きません。その中で、それなりに専門性も高めてきたつもりです。他院での経験も大切な財産となつていて、これらが私の強みだと思つています。

「主任」という単語に憧れを抱いた時期がありました。かつこよくて、ものすごく頼れる存在。私の理想なのかもしれない。しかし、今の私は：名は体を現しているでしょうか。役割の変化に戸惑いを感じながら、目の前の課題をこなすのに精一杯の日々です。新たに学ぶことがいろいろあり、まさに新人時代再来という状態です。

強みを増やして自信をつけ、少し前を歩く私がスタッフに対して、大丈夫だよと言つてあげられるような存在になればと思つています。まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願ひします。



主任となつて思うこと

久保田 恵美 28 回生

この度の震災により被害を受けられた同窓生の皆様、関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。また、くれぐれも健康に留意され1日も早く復旧されますようお祈りいたします。

さて、このような世情のなか、私看護部主任となりました。

東京医大に就職して18年目の春の出来事です。

丸17年間も働き続けられたことにも驚きですが、自分が主任となったことにも驚かされています。今も自分が主任と呼ばれることに慣れない日々が続いていますし、自分の言動や行動の責任の重さを改めて感じています。また、初めて主任会や委員会に参加した際は、周りにいる諸先輩方を見回して不安な気持ちが高まりました。しかし、何事もすべては「ゼロからスタートだ」と言い聞かせ、今までの自分の経験に少しずつ学びを蓄積させていき自分なりの方法で自分を成長させていきたいと思っています。

最後に、28回生の皆さん元気で過ごして下さるか？

私ごとですが、先日夏期休暇を利用して広島に帰省してきました。今回の帰省では懐かしい同級生との再会がありました。東京で出会った友と自分の故郷で再会できることは何よりの喜びで

す。卒業して何十年もたてばお互いの生活環境に類似点を見つけていることは困難となりますが、お互いが与えられた環境の中で今出来ることをがんばっているのだと感じ、同級生の存在に感謝した夏休みでした。明日からはまた院内で頑張る同級生と共に頑張っていこうと思います。

主任昇進

濱谷 美喜子

旧姓(大森) 29 回生

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

看護学校を卒業後、東京医科大学病院に就職し、混合内科である16西病棟で看護師としてスタートしました。そこで、温かい先輩方に出会い、仕事の厳しさや楽しさを教えて頂きました。その後、NICU・GCUへ異動し、指導係を経験し、学生指導や新人指導に関わり、人を育てる大変さや楽しさを知ることができました。その後、10東病棟へ異動し、昨年より緊急入院受け入れ病棟へ体制が変わり、今年から主任に昇進し、日々勉強の毎日です。

振り返ってみると、新人の頃、不安でいっぱいなのに、多くの先輩が声をかけてくださり、同僚にもたくさん助けられました。今後仕事を続けていくか悩んだ時にも、先輩が異動を考慮して環境を変えてみたらと助言をしてく

だきました。異動したことで、新たな発見や意欲がわき、いろいろな人に出会える楽しさを感じ、今の自分があるのは、今まで出逢った先輩方や仲間への支えがあったからだと思います。これからも、出逢いを大切に、自分がいる場所で最善のことが出来るように努力し、たくさん頂いた人の温かさを返しながら、自分らしく笑顔で働きたいと思っています。



濱谷主任 (中央)

東日本大震災にて甚大な被害に遭われました同窓会の皆様にお見舞いを申し上げます。東京医科大学病院の被災地域への医療支援活動は、福島県相馬市と東京都からの要請を受けて3月24日に第1陣が発発し、私は第2陣として3月29日から4月5日まで医師2名と保健師免許を持つ看護師1名と福島県相馬郡出身の私の4名で向かいました。

既に現地では、いろいろな医療支援チームが活動し、東京医大チームも相馬中央病院の診療支援と中村第一小学校の避難者(約400名)の医療支援をすることにしました。避難所の中村第一小学校には、巨大津波で家を流されたり家族を亡くしたなどの被害を受けた海岸部地域の方々が各教室や体育館に分かれて避難生活をしていました。避難所には、食料・衣類・毛布・テレビなどの生活支援物資は届けられており、食事も野菜不足で塩分が多くなりがちでしたが、食提供されていました。時々ボランティアの方が温かい食事や飲み物を提供していました。

私たちの診察に訪れる方は、常備薬がなくなつた、避難所生活での周囲への気遣い・ストレスなどで血圧が不安定になった、不眠、風邪症状がある人など様々でした。中には、慢性疾患で自宅療養をしていた方が避難所暮らしで体調を崩し入院を余儀なくされるケースもありました。避難者の中には、体動困難な方や遠慮深い方もいると考え各



東京医科大学病院の東日本大震災に伴う被災地域への医療支援活動に参加して

早川 司子 15 回生

教室を巡回し血圧測定を行い積極的に声をかけて回り、避難所の方々とお話しをする機会も増え、津波の恐ろしさや、頑張つて建てた自宅が流されてしまったこと、これからの生活の不安など、辛い胸の内を少しずつ話してくれようになりました。私は話を聞くことしかできませんでしたが、その語られる被災者の辛い体験話には、こらえてもこらえても涙が止まりませんでした。また、昼間は自宅に戻り後片付けをする人、夜間に体調不良を訴える人もおり、夕方にも診察をしたところ、避難所の方から「長い夜を過ごすうえで安心感につながる」という言葉をいただきました。避難所の方々には、まだまだ表情が硬く言葉が少ない人、仕事や家族を失った喪失感に心を痛めていると思われる人がたくさんいると感じ、これから必要とされる支援は「心のケア」になると痛感し、次のチームに引き継ぎました。

当院の医療支援は、辛被災地域でのあらゆる壁を無くし人々に寄り添える医療支援として、支援メンバーに福島県出身者や東北出身者を加え8日間という長期間で関わったことは、特に会話が中心となる「心のケア」ではとても良いケアに繋がったと聞いております。

被災地の復興はこれからで、特に福島県は原子力発電所事故の放射能問題で二重の被害に苦しめられています。被災地の皆様が、どうか一日でも早く復興していくことを心から願わずには

いられません。頑張れ東北！頑張れ福島！職員一同これからも支援活動に協力していきます！



左から近藤医師、加藤看護師、早川師長、山下医師

学生が元気の源です



黒坂 知子
旧姓(石塚)

本科3回生

同窓生の皆様、お久しぶりです。3回生の黒坂です。6年前に母校の教員を早期定年退職し、半年間介護に専念しましたが、縁あって、5年前より茅ヶ崎の看護専門学校で、責任者として再

度基礎教育に携わっております。今も仕事と99歳の母の介護の両立に頑張っております。

現在勤務している学校は、成熟期にある母校と異なり、青年期に入ったばかりの学校です。其の為、実習場の開拓や教員の質向上など、課題は多いのですが、臨地実習をささえる関連病院看護部との連携の強さが自慢です。また、教職員・学生共々これから歴史を創っていくという意気込みを感じています。オシャレ(?)な茅ヶ崎の地にあつて、住宅街の中に立ち、周りには畑もあり、新宿の賑わいとは程遠い地です。

学生は、18歳から51歳までの2000人余、社会人が40%、男子学生20%、子育て中の学生も多いなど、学生の背景は随分変わりました。しかし、看護の心を学び、医療および地域に貢献しようという気持ちは、永年基礎教育に携わっていますが、変化はないように思っています。これらの学生に囲まれ、刺激のある毎日が私の元気と若さ(?)の源です。

就任時の約束と責任も残り1年余りで果たせそうです。一人でも優秀な学生を育てることが私の役割ですので、約束の日々を、元気と若さを保ち過ごしていきたいと願っています。

サザンビーチとは、少し離れておりますが、湘南の地にお越しの節は、是非お立ち寄りください。見学大歓迎です。

突然のでき事に!



加藤 恵子

本科5回生

猛暑からようやく解放され、1ヶ月振りの早朝ウォーキング。すれ違う顔触れは相変わらず同じ。「おはようございませう」の挨拶が互いの無事を確かめ合っているように思える。なぜなら、会う人の殆んどが中高年者だからである。3月11日に突然襲ってきた東日本大震災。誰もが全く予想していなかっただけに、その衝撃は大きく、未だ毎日のように映し出される被災地の映像には、ただ涙するしか術がない。幸いにも、被災地に住む親友は難を逃れることができていた。人生には、思いがけない事が振りかかってくる事がある。一昨年、癌の再発で父を亡くし、更に追いつきをかけるように母の認知症を知ることになった。一旦離れた看護の世界に再び戻ったが、60才の定年を境に、いよいよ人生最後の目標を目指そうとしていた矢先であった。今までも、何度か突然の方向転換をせざるを得ず、混乱の日々を過ごすことが少なからずあった。しかしその都度、周囲の誰かに励まされたり、助けられたりして過ぎてきた。そして、決して自分独りではないのだということを感じさせられてきた。495ヶ月という長い看護師としての人生を歩んできたが、今回

の大震災を機に、職業としてではなく、改めて誰かの役に立たなくてはならないと思うようになった。そして今、音訳ボランティアになるうと、来年3月まで続く養成講座を受けている。終了後に始まる実践の方が大変そうであるが、頑張るつもりである。



学びの日々

小林 千帆

旧姓 (小林) 22 回生

22 回生の皆様、同窓生の皆様お元気ですか？初めて原稿を書かせて頂くことになりました。私は高校卒業後、岩手の田舎から東京に出てきて、訛りが取れず都会の生活に慣れず早く田舎に帰りたいと思っていたのですが、結婚、出産し、いつの間にか東京での生活のほうに長くなってしまいました。東京医大の 9 階東病棟に就職し、今に至ります。

9 階東の産科病棟は外来との一体化を行っているので、産科婦人科外来と病棟との両方で勤務をしています。外来には様々な患者さんが来ます。私は診察の介助を通して色々なことを学んでいます。不妊治療を受けている患者さんからは、子供を授かることへの女

性としての強い気持ち、生殖の神秘。卵巣や子宮疾患の治療を受ける患者さんからは、女性にしかわからない不安。化学療法を受ける患者さんからは人生の過ごし方、家族のサポートの大切さ等です。

ストレスが多い中この仕事を続けていきたいと思わせてくれるものは、妊婦さんの日々母親になっていく姿や全身から醸し出すオーラと、新生児の純真無垢なパワーです。どのパワースポットよりも私を元気づけてくれるような気がします。分娩では母親の何があっても子供を守るといふ底力を感じ、産まれてきた赤ちゃんはとつても可愛くて、自分が助産師を目指した初心を思い出させてくれます。

色々学ばせてもらい、与えてもらうだけでなく、ニーズに応えられるよう日々勉強の気持ちを忘れずがんばっていききたいと思えます。



同期最高!!

八波 智美 26 回生

同窓会のみなさま、26 回生のみなさまこんにちは。

私は、現在東京医科大学病院(以下東医)で看護部教育担当室主任看護師として勤務しています。約 17 年の看護師経験では常に患者さんが側に居たため、現在の環境はなんとも寂しいものだ(何が足りない...?)と感じています。

さて、右記に「約 17 年の看護師経験」と記載していますが、26 回生のみなさんは、「おやつ?」と思われたことでしょう。実は 2 年間、東医と看護師生活から離れていたのです。2 年間は辛く苦しいものでしたが、人々との素晴らしい出会いが多くあり、今の私にとって貴重な財産となっています。それと同時に「同期ってやっぱり最高だな」と私にとって、同期の存在がよりかけがえのないものとなりました。

心が折れそうになった時に、何も連絡してないのに私の欲しい言葉(時々は物)をタイミング良くくれました。まるで監視カメラで見ているかのように。東医に戻ってきてからは、特に残っている同期に本当に助けてもらってばかりで、いつかこのお礼をと思つて：どうしよう：膨大過ぎてしまつています。恐いです。と言うのは冗談で、東医の卒業生であり、また 26 回生でよかったとこの数年強く感じており、いろいろ助けていただいた分は、何らかの形でみなさまに返していきたいと思っております。

最後に、この度の東日本大震災において被災されましたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

私の近況



宮古 恵子
旧姓 (荒井) 30 回生

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。そして、30 回生の皆様お変わりありませんか。私は昨年結婚し、退職しました。指導係も経験し大変充実した 13 年でした。

退職後、専業主婦となり間もない頃は一日家に居ることに違和感があり、毎日過ごしていてもついつい勤務時間と重ねていました。

しかし、妊娠を期に一日一日過ぎゆく時間が、わが子の成長を感じる時間へと変化し、時間の経過がいとおいしくなりました。

妊娠していままで見えなかった風景が見え、人とのつながりも増えました。初めて会う人にもやさしい言葉をかけてもらえるようになりました。

また、子どもと一緒に居ると私達にやさしく微笑んでくれたり、席をゆずってくれたり、世間はこんなに親切だったかと思えることをたくさん経験させてもらっています。

わが子が人との関わりや世界を広げてくれました。

現在は夫の転勤で新潟に住んでいます。毎日子育てでへとへとですが、子どもの笑顔みたさに頑張るその笑顔で救われています。そして夫婦で子ども

の成長に日々目を細め、感動している
穏やかな毎日を送っています。
いつか、育児から手が離れたら再び
助産師として働きたいと思いますが、
しばらくはわが子の成長と専業主婦を
楽しみたいと思います。

近況報告

辻 悦子 42 回生

東京医科大学病院に就職後、集中治
療部に配属され今年で看護師 4 年目
になりました。昨年からはプリセプター
を努めるようになり、もう自分が教え
る立場なんだと月日の流れの早さを実
感しています。看護師 1 年目は、分か
らない時に笑ってごまかししたり、言
にくい事は誰かに頼ったりしていた学
生時代までの自分では通用しないと痛
感し、必死に分からないことを調べた
り、苦手な先輩に緊張しながらも報告
したりしたものです。社会人として責
任を持つというプレッシャーで心が押
しつぶされそうな毎日で、しばらくの
間は家に帰ってから仕事の間が頭
から離れませんでした。その後徐々に
仕事に慣れて、今では仕事とプライ
ベートとで ON/OFF のスイッチが
上手に入れ替えられるようになりました。
最近では料理を始めようと思い、思
い切つて実家から寮に引越しをしまし
た。料理を作るのに始めは 4、5 時間
位かかってしまい夕食が 0 時近くにな

ることもありまし
たが、続けていく
うちに 1 時間位で
出来るようになり
ました。考えてい
た通りの手順でス
ムーズに料理が出
来上がると達成感
が得られてとても
嬉しいのです。これから料理のレパート
リーを増やせば良いなと思つていま
す。また食べ過ぎているのでスポーツ
ジムにも通おうかなと考えています。
つらい時期もありましたが、仕事もプ
ライベートも充実していてもとても幸せ
で、看護師を続けていて良かったとい
う感じがしています。



戴帽式を終えて

水上 聖加 47 回生

看護専門学校 2 年



戴帽式の前日の夜、私は様々な思い
で胸がいっぱいになりました。高校一
年生の時に参加した看護体験で戴帽式
の存在を知り、「いつか自分も蠟燭を持
ち、ナイチンゲール誓詞を述べる日が

迎えられるように頑張ろう。」と決意し、
4 年が経ちました。家族、特に祖母は
私の入学が決まった時から戴帽式に参
加することを心待ちにしてくれていま
した。私にとって戴帽式は自らの意思
を固めるだけでなく、応援してくれて
いる人々にその意思を見せる特別な場
でした。

戴帽式当日。名前を呼ばれ、父兄や
来賓の方の前を通つて先生方のもとに
向い、ナースキャップを戴帽して頂き
ました。ナイチンゲールに祈りを捧げ、
蠟燭に火を灯して舞台上上がった時、
私はとても温かい気持ちになり、涙が
出て来ました。会場にいるみなさん一
人一人が、私たち 47 回生全員が無事に
看護師になることを心から望み、応援
して下さっていると感じたからです。

いつも厳しくも温かい指導をして下
さる先生方、私たちが立派な看護師と
なり病院に就
職することを
心待ちにして
下さっている
来賓の方々、
辛いときには
傍で支えてく
れた家族、そ
して、お互い
助け合いなが
らここまで来
た 47 回生のみ
んな。私はナ
イチンゲール

にだけではなく、会場に足を運んで下
さつたみなさんの心に向けてナイチン
ゲール誓詞を述べました。
私は看護師になると決めた時から、
心のこもった温かな看護が提供できる
看護師になりたいと願つてきました。
看護師を目指していく中で、辛いこと、
壁に直面することも多々あると思いま
す。もしそこでこの気持ちを忘れてし
まうことがあったなら、今回の戴帽式
のことを思い出したいと思えます。
「きつと原点に返ることが出来る」そう
思える式でした。

今回式を行うにあたり、様々な御支
援を頂きありがとうございました。ま
だまだ未熟な面もあるとは思いますが、
ご指導のほどよろしくお願い致します。



水上聖加さん (左側)

同封物の見方



貴方の整理番号です。

現在、住所がわからず会報誌をお届けできない方です。ご存知の方はフリーダイヤルまでご本人より連絡していただくように伝えていただくか、ご本人に同意の上、左記の方法にて連絡していただくようお願いいたします。

携帯電話専用のQRコードです。あなたの登録情報の確認・変更ができます。

住所が変わられた方でFAXをご利用の際お使い下さい。

現在、同窓会でお預かりしている貴方の情報です。

同窓会協力金の振込用紙です。ご協力お願いします。



住所未確認者をお知らせいただくためにご利用ください。

お近くのコンビニエンスストアまたは郵便局をご利用ください。金額変更時は郵便局でお願いします。

・ 編集後記 ・

会報第27号を発行いたしました。発行するにあたりまして、ご協力いただきました皆様には感謝いたします。東日本大震災により同窓生の安否を気遣い「絆」について考えた一年でした。東京医科大学看護専門学校も変革のときを向えようとしています。同窓会も今年度、新しい管理会社に委託し、今後を含め考えて来ました。会報により母校との繋がりが生まれれば幸いです。今後も同窓会の活動にご協力、参加をお願いいたします。編集にあたりご意見をお寄せいただければと思います。(幸)

・ 同窓会協力金募集 ・

1口 2000 円のご協力お願いします

同窓会の運営費は毎年卒業時に終身会費として頂くことによって賄われていますが、年々会員は増大し 3000 人を超えています。会報費、通信費などの運営費用の捻出に、苦慮しているのが現状です。是非とも協力金をお願いいたします。

住所変更は2つの方法で

本年より個人情報保護に配慮し、プライバシーマーク認証業者の株式会社同窓会事務局へ会員情報の管理、会報発行を委託しました。それに伴い、今年より同窓会事務局専用の受付電話・FAXが開設されました。住所が変わられた方は、下記の方法でお知らせ下さい。

フリーダイヤル 0120-10-9899 **内線124番** 平日10～17時
フリーFAX 0120-10-9184 **終日受付**